

「愛鷹山と生きる」見学会

令和3年11月21日(日)12:00出発

高尾山古墳を守る会（2021年度秋期役員研修会資料）

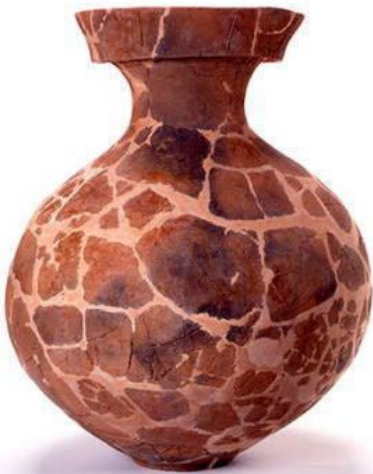


コロナウイルスの蔓延で前年度今年度と満足
のゆく活動ができませんでしたが、ようやくウイル
スの蔓延も収束に向いつつあります。私たちの
活動も新たな展開を見据え再開しなければなり
ません。行政も来年度は高尾山古墳も国指定に
むけて動き出す様相です。

研修会の目的は歴史知識の蓄積もありますが、
なにより会員の結束と目的意識の協調にあ
ります。半日に満たない見学ですが、好奇心を
フルスロットルにして見学したいと思います。

今回の表題の企画展示は第5展示室1室になりますが、展示内容は大変密度の濃い展示内容に
なっています。今回の研修会資料としては、展示内容の内、高尾山古墳と関係が深い「大廓式土器」
と全国的にも4例しか知られずそのうちの2例が沼津・富士から見つかった「T字型利器」を取り上げ
ました。かぐや姫ミュージアムは他にも展示室が4部屋あるとともに、歴史民俗資料館も隣接しており
ますので、午後4時半頃を目安に見学したいと思います。

大廓式(おおぐるわ)式土器



沼津市足高尾上 北神馬土手遺跡（きたじんめどていせき）
器高67.0cm 口径31.0cm 胴部最大径51.2cm

駿河地域の「大廓(おおぐるわ)式土器」の指標となる大型の壺である。口唇部内面に粘土帯を貼り付けた複合口縁を有し、胎土に白色
粒子が多く含まれている。大廓式土器は東北地方南部から近畿地方
の遺跡でも出土しており、各地の土器編年の並行関係を検討する上
での指標、また、当時の地域間交流を知る資料として注目されてい
る。

静岡県埋蔵文化財センター資料

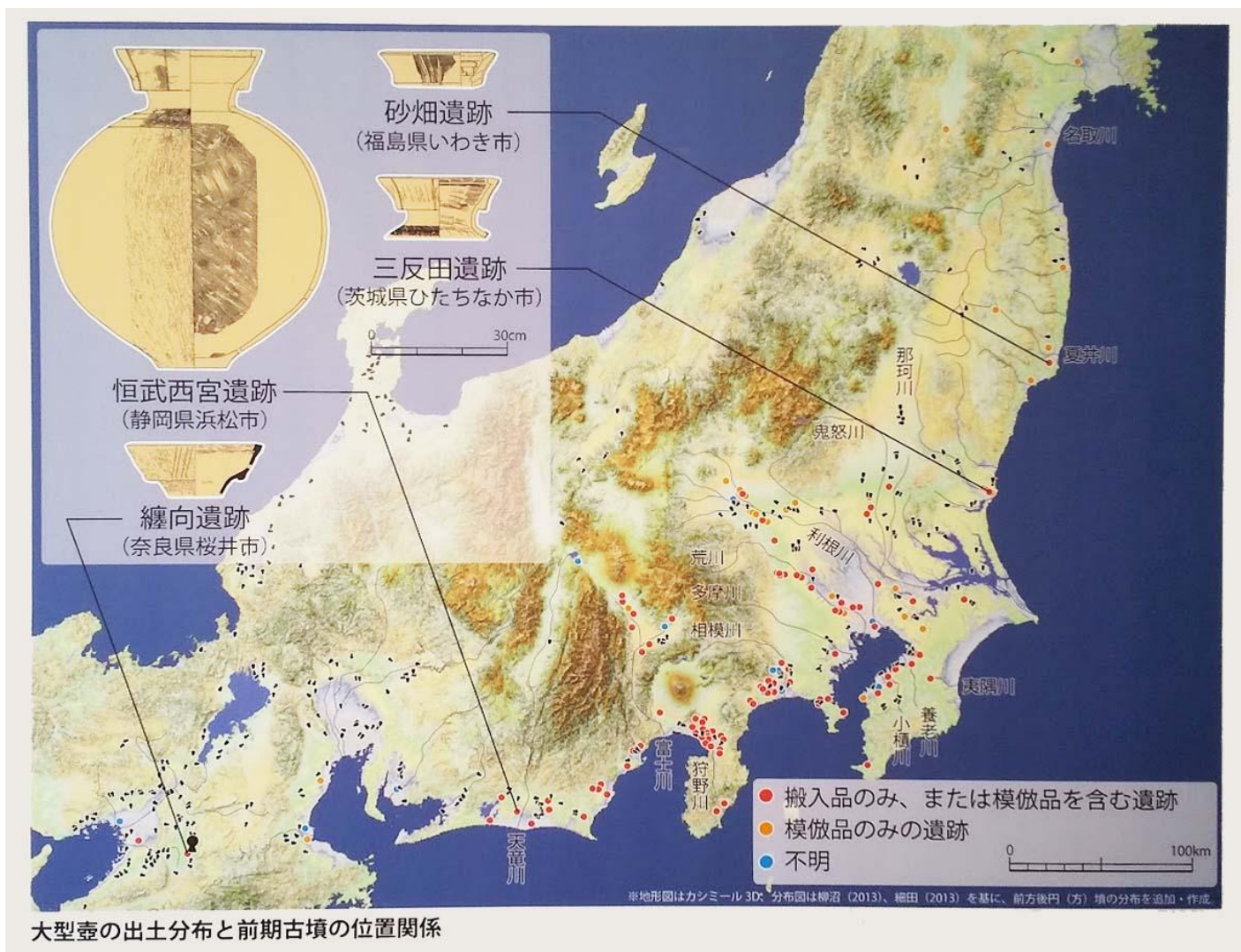
『ウィキペディア wikipedia』高尾山古墳より 大廓式土器 引用

高尾山古墳で数多く発掘され、中心的な土器であったと評価されている静岡県東部の在地型土器は、大廓
式土器と呼ばれている。大廓式土器はこれまで静岡県東部で生産されてきた土器を基本として、各地から静岡
県東部地域に搬入された外来土器の影響を受けて成立したと見られており、200年頃から300年頃にかけて生
産されていたと考えられている。また主な生産拠点は狩野川下流域にあったと見られている。大廓式土器は複
合口縁壺、折返口縁壺、甕、高坏といった器種から構成され、中でも大型壺が特徴的なものとされる。また土器
の胎土には縄文時代晩期に天城山のカワゴ平から伊豆東部火山群の活動の一環として噴出したカワゴ平軽石
を含み、当時の他の大型壺よりも軽量という特徴がある。静岡県東部では大廓式土器の使用開始をもって古墳
墳時代の幕開けと見なしている。また大廓式土器はその形態から、様式1から4までの4段階の様式変化があっ
たとされている。

船で旅する巨大壺 (企画展示資料よりコピー)

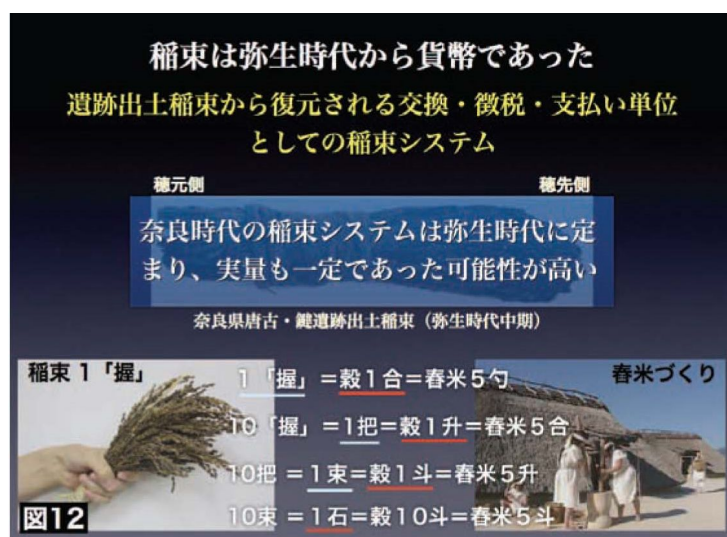
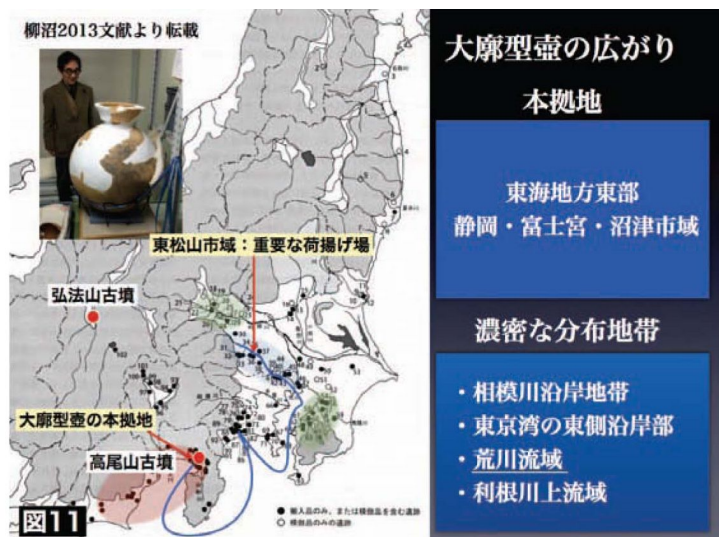
突帯文(とつたいもん:土器面より一段高く盛り上げた線状や帯状の文様)を施し、二重の口縁をもつ大廓式土器と呼ばれる大型の壺が、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて東駿河で生産・使用されるようになり、関東各地や甲信地域に搬出されました。大廓式大型壺の分布をみると、太平洋側に偏っており、類似品を含めると、西は大阪府、東は前期古墳の最北端である宮城県まで分布し、河川や海沿いに広がっています。そのことから大廓式土器が、古墳時代前期にはすでに東北方面へ広がっていたことがわかります。

大廓式大型壺の用途は、古墳での祭祀用や稲粳などを舟で運ぶ容器としての使用が考えられています。弥生時代後期に誕生した東駿河地域のリーダーが稲粳を交渉の材料として、勢力の拡大や東国の開拓を後押しするために大廓式大型壺を用いたものとされています。



邪馬台国と弘法山古墳 東海大学文学部歴史学科 北條芳隆 インターネット資料 より抜粋

沼津市域内で多量に製作された大容量の壺形土器である大廓型壺が関東各地へ運ばれました。その到着先に新たな交易拠点が築かれ、近隣には初期の前方後方墳がつくられるという様相が認められます。問題は、大廓型壺には何が収納され、どのように運ばれたのかですが、内容物は登呂遺跡や山木遺跡など低地部水田から収穫された稲粃であり、壺には木蓋を落とし込んで密閉させ、伊豆半島から駿河湾・東京湾に向けて海上輸送させたのであろうと私は考えています。大廓型壺は白色軽石(カワゴ平パミス)を多量に練り込むスカスカの胎土で軽量ですから穀物の収納と船運には向く反面、液体は絶対に収納不可能です。さらに状況証拠としては、大廓型壺が持ちこまれた先で新たな水田耕地開発が進められたことです。低地部の水田開発にあたっては種粃としても活用された可能性が高いのです(図11)。

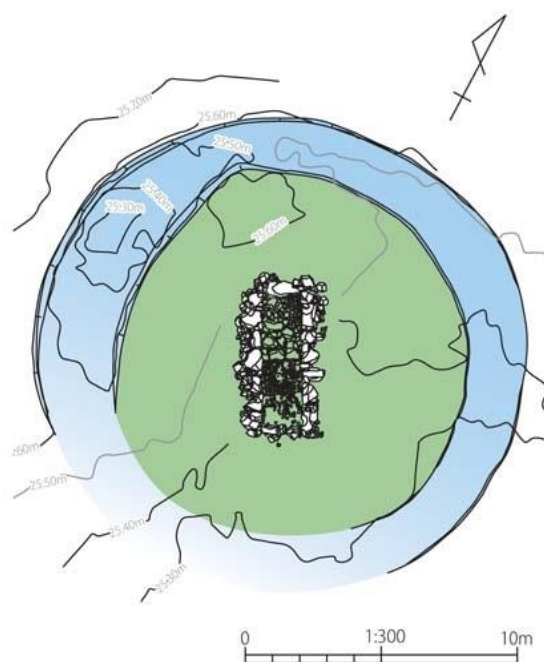


なによりも稲穀は穀物貨幣の代表格ですから(図12)、水稻農耕は貨幣生産でもありました。奈良時代に田租とされたのは稲束ですが、束・把・「握」の3階層からなる徴税や流通の単位は弥生時代中期にまではさかのぼり、実量も一定であったことが指摘できます。つまり関東各での水稻農耕地の拡大とは、近江・東海そして大和側へも供給可能な貨幣生産の拡大でもあったわけです。その意味での経済的支援が信濃や関東各地に求められ、そのための鏡の贈与であり、前方後方墳祭式の一括供与だったと理解されるのです。

富士市伝法・東平1号墳とT字形利器

かぐや姫ミュージアム・企画展『東海の軍を發す』解説書より抜粋

潤井川東岸の伝法古墳群内に位置する東平1号墳は、7世紀中頃に築かれた直径約13mの円墳です。埋葬施設は無袖形横穴式石室であり、入口対して玄室(奥)側が一段下がる構造(段構造)であることが特徴です。全長5.1mの石室から、銀象嵌装大刀(ぎんぞうがんそうたち)や鉄製円頭(えんとう)大刀、鉄鏃、金銅装のものを含む2組の馬具などとともに、渡来人にかかわる儀礼のための武器とみられる丁字形利(ていじがたりき)が出土しました。この古墳の主は、渡来系集団を束ねつつ、東日本諸地域との交流網も有した、富土地域の軍事的指導者であったと考えられます。



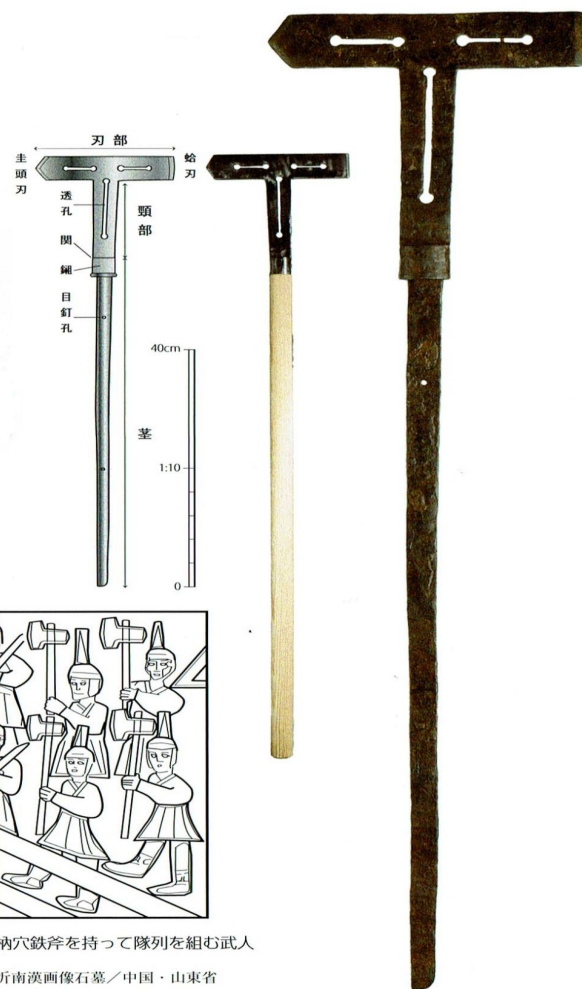
東平第1号墳 平面図 (1:300)



東平第1号墳 石室全景(南東から)
3回目(最後)の床面の様子です。
手前(前室)と奥(後室)を区切るために、中央に仕切石を据えています。後室には丁字形利器と大刀3振がまとめて置かれ、前室の壁際には馬具(壺鍔・轡)が置かれています。



「軍事的指導者」×「渡来系」
を象徴する副葬品群
出土品集合／東平1号墳
当館蔵（富士市指定有形文化財）
撮影：杉本 和樹氏



柄穴鉄斧を持って隊列を組む武人
沂南漢画像石墓／中国・山東省
※拓本を基にトレース

中国・朝鮮半島との交流を物語る儀礼の武器

かぐや姫ミュージアム・企画展『東海の軍を発す』解説書より抜粋

ヒミツの武器—丁字形利器の特徴

東平1号墳から発掘された遺物のなかでも、ひと際目を引くのが、丁字形利器と呼ばれる特異な形状の武器です。一見、斧のようにも見える刃部には両端に刃があり、一方は圭頭(けいとう)状、もう一方は蛤刃(はまぐりば)状に作り出されています。刃部の中央まちは「丁」字状に頸部が取り付け、関(まち)を介して細長い茎(なかご)が伸びており、刃部と頸部には毛抜き状の透孔(すかしあなが)穿たれています。関には別造りのはばき取り付けられているので、これより下方に木製の長大な柄が存在したとみられます。

細部の形状は倭製大刀との共通点が多く、倭の工人によって製作されたことは疑いないですが、この特異な形自体は朝鮮半島の高句麗でみられる双方刃の柄穴鉄斧(ほぞあなてつぷ)を祖形としており、渡来人にかかわる儀礼的な武器と考えられます。

丁字形利器/富士市東平1号墳(富士市指定有形文化財)
※柄付のものは復元品(製作: 久保田 英聖)



コラム 丁字形利器と渡来人

かぐや姫ミュージアム・企画展『東海の軍を発す』解説書より抜粋

東平1号墳で見つかった丁字形利は、国内では現在までに4例の存在が確認されています。沼津市下香貫に位置する宮原2号墳は、7世紀中頃に築かれた直径10m程度、石室全長9 m程の小型円墳であり、組合式石棺とともに、金属製壺鐙や轡などが出土しています。兵庫県香美町に所在する月岡下古墳は、7世紀初め頃に築かれた小規模古墳であり、長さ 4.3m以上の横穴式石室から、大刀、鉄鏃、馬具、鉄斧、刀子、槍鉋、紡錘車、須恵器、玉類などが出土しています。宮城県多賀城市に位置する多賀城跡の例は、奈良時代の鍛冶工房からの出土であり、鉄製品を製作するためのリサイクル素材として持ち込まれたものと考えられます。

4例はいずれも形態的に共通性が高く、朝鮮半島出土のものとの乖離も著しいため、7世紀初頭から中頃にかけて倭国内で製作されたものと考えられますが、その源流は朝鮮半島の高句麗で発達した柄穴鉄斧（斧鉞・ふえつ）に求められます。斧鉞は、古代中国において軍事統率権や刑罰執行権を象徴する儀器として重視されたものであり、それが形を変え、倭国内においては地域社会の中の渡来系集団を統率する役割も付与されたのではないかと考えられます。

東平1号墳の主が丁字形利器を所有していた事実は、彼が統括した集団と高句麗系渡来人との関連を強く示します。彼がまとめた集団のなかに、高句麗系渡来人がいたのかもしれませんが、彼自身が高句麗系の渡来人であった可能性もあります。東平1号墳の主やその後継者は、後の奈良時代までに富士郡の郡領氏族・郡司層へと成長を遂げますが、その大躍進の源に、「ヒミツの武器」によって統率された渡来人の力が働いていたことは非常に重要です。



9,10,11 列島各地で出土した渡来系儀礼の武器

丁字形利器／9：宮原2号墳、10：月岡下古墳、11：多賀城跡

9：沼津市教育委員会蔵

10：香美町教育委員会蔵（写真展示）

11：東北歴史博物館蔵・画像提供（写真展示）